

利用・用途・応用分野

肝疾患・肝不全症治療、検査、臨床医療

目的・課題

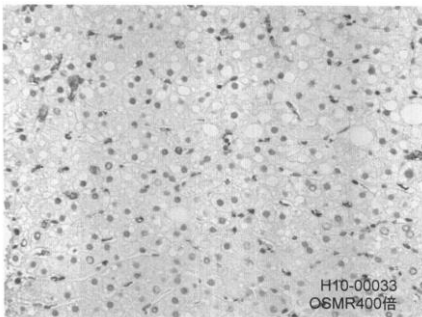
近年、アルコールを摂取しないヒトの間にもアルコール性肝障害に類似した所見が現れることが判明してきた。非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の進展度合いの判定に際して、肝生検体を用いることなく患者に対する負担が少なく、安価で方法を提供する。

解決ポイント

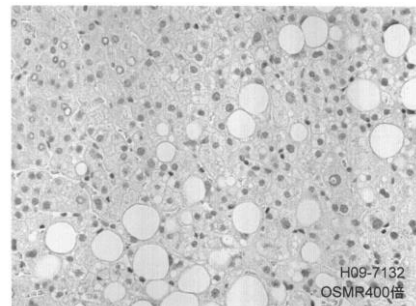
NAFLD患者の血清中のオンコスタチンMを測定することにより、NAFLDの進展度合いを判定する。ここで、NAFLDの進展度合いを判定する指標として、オンコスタチンMの測定値が60pg/mlを超える場合NAFLD activity score (NAS) が「6以上」と評価し、オンコスタチンMの測定値が20~60pg/mlの場合、NASが5と評価し、オンコスタチンMの測定値が20pg/ml未満である場合、NASが4以下と評価する。

研究概要・アピールポイント

NAFLDの進行度判定が血清中オンコスタチンM量を用いることで、患者の負担が大きかった従来の組織採取に代わり、血液採取のみで可能となる。



患者A: 肝生検の結果 NAS 6
オンコスタチンM濃度68.8pg/ml



患者B: 肝生検の結果 NAS 4
オンコスタチンM濃度15.6pg/ml

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティー・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp